

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

にじいろ保育園江田

横浜市青葉区荏田町 2361-3

運営主体：株式会社 サクセスアカデミー

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
分類別評価結果	4～15 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	16～22 ページ
利用者本人調査分析	23～24 ページ
事業者コメント	25 ページ

公表日：2011年3月16日

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	にじいろ保育園江田（保育所）		
事業所への 報告書提出日	2011年2月9日	評価に要した期間	7ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2010年7月上旬～10月8日</p>	<p>常勤・非常勤職員に自己評価についての説明をし、1週間の期間の中で、個々で記入した。</p> <p>個々で記入したものをもとに毎週金曜日、幼児クラスと乳児クラスに分かれて1～2ページずつ話し合いを設け、意見の出し合いを行った。</p> <p>（非常勤職員は話し合いに参加できる人は参加し、できない場合は記入した自己評価票を園長が預かり、一緒にまとめた。）</p> <p>毎週月曜日にそれを持ち寄り、全保育士が参加するようにして1項目ずつ意見を出し合った。</p> <p>園長が全員の意見を一つにまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2010年10月1日～14日</p>	<p>全園児の保護者（46世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 2010年12月13日 第2日 12月15日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。園長・法人本部職員に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士5名、看護師、栄養士、非常勤職員、フリー保育士に個別に面接調査。 その後、園長・法人本部職員に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 2010年12月13日 第2日 12月15日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

「にじいろ保育園江田」は、東急電鉄田園都市線「江田」駅より徒歩 1～2 分の駅裏側にあり、玄関脇を見上げると高架線路に電車が行き来しています。園は、5 階建て居住用マンションの 1 階部分にあり、同じ 1 階には他にも居宅介護支援事業所や向かいの病院の院内保育施設、2 階には学習塾や音楽教室が入っています。門を出ると、交通量のある駅前通りで、駅周辺にはスーパーマーケットやレストラン、コイン駐車場などが立ち並んでいるものの、徒歩 5 分程度の場所には大きな多目的広場のある赤田東公園もあり、自然とのふれあいもできて環境にも恵まれた立地です。

2008 年（平成 20 年）4 月に、0 歳から 5 歳まで定員 54 名で開園した認可保育所です。開園時間は平日午前 7 時から午後 8 時、土曜日は午前 7 時から午後 6 時です（延長保育時間を含みます）。

運営法人は、株式会社サクセスアカデミー（以下、運営法人）です。運営法人は保育園・学童クラブ・児童館の運営、病院・企業・大学内の保育受託サービス、保育施設運営のコンサルティングサービス等を、手広く、首都圏を中心に展開しています。

保育理念は「～みんなが輝く社会のために～ 1．陽だまりのような保育園、2．地域と共に育つ保育園、3．子どもとともに輝いていける保育園」を掲げています。保育目標は、保育理念に基づいて「～みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛～信頼・安定・共感」です。これらは運営法人の系列園に共通のものですが、それらを根底に置いて、「にじいろ保育園江田」が目指す園目標を「子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の幸福のために日々、保護者や地域社会と力を合わせ、子どもの福祉を積極的に推進し家族援助を行える園」とし、その実現のために具体的な取り組みをあげて、独自にも取り組んでいます。

高く評価できる点

1、大きなワンルームの空間に、年齢ごとの落ち着いた保育室を作り出しています

2 歳から 5 歳までの保育室は大きなワンルームですが、毎年、動線を考えた環境構成に工夫を重ねてきました。現在、各クラスのロッカーや棚等を活用して真中に通路を作り、天井から短いカーテンを下げるなどして両側に落ち着いた年齢別保育室を作っています。それぞれが「私のお部屋」と感じられる空間です。ロッカー等は低いので、保護者は保育室の中を自由に見渡せながらも、中に入らずに入り口で準備等ができ、朝夕の送迎の時間帯も保育室内はバタバタすることがありません。

0 歳児保育室、1 歳児保育室も含め、各保育室内は子どもの興味を考えた様々な工夫があり、その年齢にふさわしい遊びコーナーや他の子どもたちを意識しないで遊べる隅のコーナー等も作っています。子どもたちが飛びつくような手作り玩具も多く、0 歳児保育室には特に一人ひとりの子どもの発達段階を考えた保育士の手作りおもちゃが多くそろえてあります。布の人形の他にも、牛乳パックで作った犬や、小さいトンネル、段ボールの大きなトンネル等も廃材から作ったようには見えない出来栄で、大人気です。

各保育室とも、子どもたちが自分の好きな遊びを選んで、落ち着いて遊びに集中できる環境を設定しています。

2、子どもたちは自由な遊びやクラスごとの遊び・製作に集中しています

子どもたちは朝から好きな遊びのコーナーに行って、思い思いにプラレール、パズル等の知育玩具、あやとり、塗り絵、絵本や手軽な図鑑、手作りの人形等で遊びに集中しています。

クラスごとの遊びでは、例えば 1 歳児は新聞紙をちぎり、集め、散らし・・・という単純な遊びに熱中していました。3 歳児クラスでは粘土遊びに 40 分以上集中し、ケーキを作って切り分けたり、慎重に

小さい小さいお団子を作って粘土のお盆に盛ったり、何種類ものかなりそれらしい怪獣を作ったり、一人ひとりが真剣に取り組んでいる様子が見られました。

幼児は月に2回、専門の講師から造形の指導を受けています。4、5歳児の作品は、細かいところも工夫されていて、子どもたちに培われた力が感じられます。

3、職種を超えて保育に取り組んでいます。

開園3年目、園運営の基礎作りの時期で、非常勤職員も含めて全員が同じ気持ちで園の運営にあたるようにということを最も大切にして、風通しの良い職場づくりを目指してきました。園長は日常的な職員とのコミュニケーションを大切にし、運営法人本部の園担当スーパーバイザーは園長の相談役になり、個々の職員のモチベーション向上にも努めています。

現在、職員は職種に関わらず前向きに保育に取り組んでいる様子がヒアリングからもうかがえました。看護師、栄養士も専門性を活かして保育士と共に子どもたちに積極的に関わっています。看護師は子どもたちの健康状態に気を配り、毎日2回、全クラスを回って全園児の健康状況を把握しています。また、毎週爪チェックをしたり、手洗い週間を作ったり、月初めに子どもたちの合同保健集会をしたりして、子どもたちは歯磨きや手洗い等の習慣がしっかりと身につけています。栄養士も、日々子どもたちの様子を見て回り、食材ボードを作って給食室の前に貼り、食材への関心を育てています。また、子どもたちの状態に応じて、特に咀嚼力を高める食材やメニューを独自に考えています。

子どもたちは全職員に見守られて元気に保育園生活を送っています。

独自に取り組んでいる点

園庭がない分、積極的に戸外に出て、体力作りに力を入れています。

まず保育課程に「歩行」を全年齢に継続して取りあげています。「歩くこと」を積み上げて、年長児のオリエンテーリングに発展させる計画です。子どもたちは天気の良い日は一日2回、散歩や公園遊びを楽しみます。公園では、乳児は階段や起伏のあるところの昇降で脚力を付けたり、広い公園を走り回ったりして楽しめます。幼児は思い切り身体を動かして大縄跳びや方形ドッジボール等、この年齢ではむずかしい遊びも喜んでしています。大縄跳びは全員が励まし合いながら取り組んでいて、4・5歳児で跳べない子どもはいません。また、幼児クラスでは年間計画を立てて月2回のリズム遊びを楽しんでいます。乳児クラスも雨の日はリズム遊びをしたり、保育室にマットの山やトンネルを作ったりして、遊びながら体力をつけるようにしています。

なお、保護者アンケートでは、「園庭が無いのが残念」という意見が複数ありますが、「戸外遊びを十分しているか」「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動」「遊びを通じた健康作りへの取り組み」の問いについて、85%以上の満足度となっており、園庭の無いデメリットに対しての園の取り組みが、ある程度実績を積み上げ、保護者に評価されているものと考えられます。

更なる取組みが望まれる点

地域支援にもう一步の前進を

現在、毎月第2土曜日を園開放の日とし、地域の5歳児までの親子に対して、乳児の親子には看護師によるベビーマッサージやおしゃべり会を、幼児の親子には保育士が読み聞かせや歌遊びを実施しています。毎月数組の参加者があり、少しずつ地域に浸透してきました。看護師はキッズヨガ等の新しい試みも取り入れ始めていますので、今後の発展が期待されます。

また、毎週月曜日には地域住民に対する育児相談を実施していて、園児と一緒に園生活を体験する保育園体験にも応じています。しかし、園の入り口や掲示が目立たないためもあってか、参加者は多くない現状です。今後、さらに広く地域住民にPRしていく取組みが望まれます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p>  <p>(1) 保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2) 保育課程は、保育の基本方針に基づき、保護者の実状などを考慮して作成されているか。</p> <p>(3) 日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の理念は、 ～みんなが輝く社会のために～ 1.陽だまりのような保育園 2.地域と共に育つ保育園 3.子どもとともに輝いていける保育園としていて、利用者本人を尊重したものとなっています。これを根底に置きながら、園目標を「子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の幸福のために日々、保護者や地域社会と力を合わせ、子どもの福祉を積極的に推進し家族援助を行える園」とし、その実現のための具体的な取り組みをあげています。 ・保育理念・基本方針・目標を明記している業務マニュアル「保育ガイド」を全職員に配付し、運営法人本部の新人研修で学習しています。園内でも、年度初めの会議で全職員に周知し、目標は玄関、各保育室、職員用トイレ等に掲示し、職員の意識を高めるようにしています。 ・保育課程は周囲の環境や保護者の就労状況等の実情も考慮して作成しています。加えて、「特に大事にしたい保育」を各年齢ごと具体的に提示しています。また、園庭がないため、体力づくりには特に力を入れていて、「歩行」を重点的に全年齢に継続して取りあげています。 ・保育課程に基づき、各年齢の発達状況を職員同士で話し合っ、年齢ごとに指導計画を作成しています。年間指導計画の特徴として、0、1歳児クラスは個別配慮を重視して「保育者の関わりと配慮」を重視してという項目を加えています。2歳児からのクラスは、子どもの興味や状況に応じたコーナーづくり、部屋づくり等の環境づくりに力を入れて「環境設定」という項目を加えています。 ・子どもの取り組みの様子や反応、意見を会議で話し合い、指導計画を見直し、ある活動は更に発展させる等、子どもの自主性を育てるように柔軟に対応しています。

- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1) 入園前に子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2) 新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3) 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

- ・入園説明会で児童調査票を配付して説明し、子どもの生育歴や家庭での状況を入園の前に保護者から記入してもらい、把握しています。
- ・面接時には面接チェック表や面談シートを使用し、子どもの身体状況や生活状況を記録しています。入園前にそれらの書類を基に職員会議で話し合い、子どもの状況を園全体で共有し、保育上気をつけなければいけないこと等を確認するようにしています。
- ・短縮保育(ならし保育)は子どもだけでなく保護者にとっても、無理なく園生活に慣れてもらうためであることを説明して納得してもらっています。保護者の予定と子どもの様子から、期間を柔軟に決めています。
- ・0歳児、1歳児には担当保育士を決めています。特に0歳児に関しては、授乳、食事、排泄、遊びをいつも同じ保育士が携わり、ふれあい遊びやスキンシップをたくさんとるようにして、まずは愛着関係をしっかり築くようにしています。
- ・指導計画は年度初めに前年度の反省点を活かして、子どもに合った計画を作成しています。その後、月1回のカリキュラム会議を通して、子どもの成長・発達に合った計画になるようにクラス内で見直しています。年度末の職員会議でも、指導計画の見直し・評価・改訂を行っています。

- 3 快適な施設環境の確保



- (1) 子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。
- (2) 沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3) 子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・マンションの1階で採光に限りがありますが、木のフローリングや木製家具を多用して、明るく落ち着いた環境づくりに努めています。開園3年目で設備も新しく、園内は清潔で、換気等にも十分に配慮しています。保育室は各クラスとも1日1度は必ず掃除・棚拭き、床拭きを行い、特にトイレは1日3回チェックしています。また、散歩の際にも窓を開けていくなどして、こまめに換気しています。また、各部屋に空気清浄機を置き、活用しています。
- ・保育室の壁には、いろいろ貼ったり必要以上の装飾等はせず、観葉植物を置く等して、落ち着いた家の雰囲気を出すようにしています。子どもたちの作品については1箇所で見られるよう、まとめて貼り出しています。
- ・沐浴設備と温水シャワーの設備の管理や清掃はマニュアルに沿って行い、常に清潔に、また危険の無いようにしています。
- ・乳児クラス(0,1歳児)の保育室は、幼児クラスからも見えるようアクリル板の壁があり、お互いの音に配慮されています。幼児クラス(2~5歳児)の保育室は大きなワンルームを区切って使用していますが、各クラスのロッカーや棚等を活用して真中に通路を作り、天井から短いカーテンを下げる等して、両側に落ち着いた年齢別の保育室を作っています。
- ・各保育室はそれぞれ様々な工夫を凝らし、その年齢にふさわしい遊びコーナーや他の子どもたちを意識しないで遊べる隅のコーナー等を作っています。子どもたちの興味を考えて作られた手作り玩具も多く、子どもたちが自分の好きな遊びを選んで遊びに集中できる環境を設定しています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- (1) 子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。
- (2) 子ども一人ひとりの発達の段階に応じた対応をし、その記録があるか。


- ・0歳児、1歳児については、個別指導計画を作成しています。また、幼児についても特別な課題のある場合には個別指導計画を作成しています。
- ・保育士は一人ひとりの子どもの姿をとらえて、月1回、必要に応じてそれ以上、園独自の様式である「子どもの姿の振り返り」を記入し、それを基にクラスで個別の目標、計画について話し合い、見直しをしています。カリキュラム会議、全体会議、給食会議でも子どもの発達状態を話し合い、見直しをしています。
- ・子ども一人ひとりの発達の段階に応じた対応記録としては、まず入園時の児童票、健康調査票、児童調査票があります。入園後の子どもの成長発達記録としては、子ども一人ひとりの「子どもの姿の振り返り」と「健康カード」があります。健康カードには、年2回の健康診断の結果、月1回の身長、体重、胸囲、頭囲測定の結果を記録しています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み





- (1) 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2) 障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3) アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。
- (4) 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- ・過去3年間に、障がいのある子どもの受け入れ実績は、ありません。
- ・障がい児保育のための環境整備としては、園の入り口門から玄関までが点字ブロックになっています。玄関を入ると中はバリアフリーで手すりがあり、車椅子用のトイレも整備しています。各部屋もフラットで、車椅子の使用に対応し、受け入れに対して積極的な姿勢があります。
- ・気になる子どもについては、会議で話し合ったことを議事録に記載し、全職員で共有しています。
- ・障がい児保育に関する研修を受け、園全体で話し合える体制を取っています。また、運営法人本部から委託で月1回派遣されている臨床心理士からの助言や指導を受けることもできます。
- ・アレルギー疾患のある子どもについては、入園時に保護者から十分に聞き取りをし、その子どものアレルギーの内容・度合いを全職員が把握し、専門医の指示書に従って栄養士が献立を立てています。除去食・代替食は、翌月の献立表作成時に保護者と確認し、話し合って決めています。
- ・アレルギー疾患についての必要な知識や情報、アナフィラキシー発症時の対応の仕方等については、看護師による園内研修も実施し、全職員が統一した方法で対応できるようにしています。現在は除去食専用のプレート、トレイ、食器、テーブルを用意し、複数の職員が確認して配膳しています。
- ・除去食・代替食が見た目に普通食と違う場合などには、孤立感が無いように保育士がアレルギーの子どものそばに入り、楽しく食事が出来るように配慮しています。
- ・文化の異なる子どもについては、生活習慣や考え方の違い等を尊重し、入園時の面接で詳しく話を聞きます。その上で、子どもへの対応をどのようにするかを職員間で話し合い、食事に関しても好みなどを尊重して、初めは食べやすいメニューを考え、白いご飯をバターライスにしたり、徐々に白いご飯に慣れるように配慮するなどしています。また、保育の中では、いろいろな国の国旗を作ったり、そこに住む人たちの事や異文化に関する話をしたり図鑑を見たりして子どもたちに

	も知らせています。
<p>- 6 苦情解決体制</p>  <p>(1) 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。</p> <p>(2) 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決マニュアルを玄関に掲示し、第三者委員も運営法人本部も苦情を受け付けていることを知らせています。 ・玄関にスマイルボックス（意見箱）を設置し、保護者懇談会でも要望を聴き、運営委員会（保護者代表2名、第三者委員、園長、運営法人本部職員で構成）の場でも率直な意見を聴くようにしています。 ・園として、保護者が話しかけやすい雰囲気を作るように普段から心がけ、また、連絡ノートでも懇談会や個人面接の時にもすすんで意見を聴くようにしています。 ・保護者から要望や苦情が出た時には率直に受けとめ、まず日々のミーティング等で迅速に全職員に伝え（いつ、誰が、どういうことで、どうなったか）、園側の対応の仕方等を話します。その後職員会議で原因・対応内容・再発防止に関して全職員で話し合い検討し、今後どのようなやり方をしていくことがよいか職員間で十分話すようにしています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p>  <p>(1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。</p> <p>(2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p>(3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p>(4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p>(5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p>(6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃや絵本は、子どもが取り出しやすい高さの棚に種類別に箱や籠に入れて置いてあり、自由に選んで遊べるようになっています。 ・年齢に応じてブロックや人形、ままごと、ゲーム等のおもちゃを用意したコーナーを設定し、マットを敷き落ち着いて遊びに集中できるように環境を作っています。 ・保育室には、保育士が手作りした牛乳パックの犬やトンネル、椅子、ダンボールにきれいな紙を貼ったトンネル、布の人形等のおもちゃが多くあり、子どもたちも喜んで遊んでいます。 ・幼児クラスでは朝、一日の予定を知らせるとき、子どもたちの意見を聞いて希望を取り入れ、興味を持って意欲的な活動ができるようにしています。 ・玄関先の花壇で、ナスやキュウリ、オクラ、ニンジン、ピーマン等を栽培し、収穫物を食育の材料にしたりスタンプ遊びを楽しんだりしています。 ・カブトムシやバッタ等の飼育や観察を通して、生き物の命がかけがえないことを学んだり、アサガオの種をプランターにまき、開花までの観察記録をまとめたりしています。 ・幼児は茅ヶ崎公園プール、山内図書館等地域の施設を利用して、のびのび過ごす中で、ルールを守ることなども学んでいます。 ・乳児は保育士と一緒にわらべ歌を歌いながら手遊びをしたり音の出るおもちゃで遊んだりしています。幼児は月2回リズム遊びを行い、曲に合わせて歌ったり身体を動かしたりすることを楽しんでいます。 ・公園遊びをする時は、年上の子どもが年下の子どもと手をつないで行き、遊ぶ時も年上の子どもは、順番を待ったり年下の子どもが危なく

	<p>ないように気をつけたりしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉活動で製作をする時も子ども一人ひとりの表現を大切にしてい て、子どもたちは意欲的に取り組んでいます。 ・保育士はけんかやもめごとをできるだけ子ども同士で解決できよう に見守っていますが、子どもが自分の気持ちを言葉でうまく伝えられ ない場合は、代弁したり介入したりしています。 ・天気のよい日は一日2回外に出て、散歩や公園遊びを楽しみ、幼児は ドッジボールや大縄跳び、かけっこ等思い切り身体を動かして遊んで います。乳児も公園の階段や起伏のあるところの昇降で脚力をつけたり、 保育室にマットの山やトンネルを作ったりして、遊びながら体力 作りをしています。 ・紫外線対策としてクラス別の帽子を着用し、特に日差しの強い時間や 場所を避けて出かけています。体調のすぐれない子どもは室内遊びに して、園長や保育士が見守っています。
<p>- 1 保育内容[生活]</p>  <p>(7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。</p> <p>(8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。</p> <p>(9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。</p> <p>(10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。</p> <p>(11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。</p> <p>(12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食時、保育士はそばで見守りながら乳児には「もぐもぐ」「かみかみ」「じょうず」等と声かけをして、食べる意欲を引き出し、幼児には保育士と一緒に食べながら、楽しく食事が進むように声かけをしています。保育士は、乳児・幼児のクラス会議で「叱るのではなく楽しい雰囲気の中で、無理なく食べられるように」話し合い、共通理解をしています。 ・乳児の授乳については、子どもに合わせた時間に、担当保育士が抱っこして、目を合わせながら落ち着いた雰囲気の中で行っています。 ・幼児クラスでは、保育士が目の前で配膳をし、子どもの食べられる量に配慮しています。おかわりをしている子どもも多いです。 ・4,5歳児が2人ずつ交替とする給食当番は、布巾洗いやテーブル拭き、「今日のメニュー」と食材カードを貼った「食育ボード」の説明等を楽しそうにしています。幼児は食べ終わった自分の食器を片付けています。 ・栄養士は運営法人本部の献立を基に園独自で献立を作り、彩り・形・子どもの嗜好を考慮して盛り付けにも留意しています。 ・七夕やクリスマス等季節ごとの行事食も提供しています。行事食では全クラスが集まりバイキング方式にしています。 ・食育としてクッキング体験をしています。野菜の皮むきをしたり刻んだり下ごしらえをして、食材に関心を持つようにしています。乳児もトウモロコシの皮むき等、できるお手伝いをしています。 ・栄養士は給食時に全クラスを回って、喫食状況を見たり、食材についての知識を子どもたちに知らせたりしています。 ・毎月、給食だより・献立表・離乳食メニュー・補食メニューを作成して、保護者に配付しています。給食だよりに食材や栄養についての情報を載せたり、玄関に人気メニューのレシピを置いたりして、保護者に提供しています。また、昨年度末には家庭での食事についてアンケートを取りました。家庭での食材や味付け、子どもの嗜好等を理解した上で、家庭と連携して食生活を考えています。 ・午睡時には、遮光カーテンで部屋を暗くして、落ち着いて入眠できる

ようにしています。保育士は、子どものそばで背中をなでたり子守歌を歌ったりしています。幼児クラスの子どもが乳児クラスの子どもを寝かしつけることもしています。また、0、1歳児については10分ごとにタイマーを設定してSIDS（乳幼児突然死症候群）チェック表に記入しています。呼吸と共に身体の向きや表情にも気をつけています。

- ・排泄については、0、1歳児については一人ひとりの排尿リズムを把握しています。幼児は時間を見ながら保育士が声かけもしますが、自由にトイレに行っています。トイレトレーニングは保護者と連絡を密にして、一人ひとりに合った時期にしています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- (1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- ・健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの健康状態を把握し、看護師が健康管理をしています。
- ・毎月身長・体重・胸囲・頭囲を計り、健康状態と共に「健康カード」に記入し、保護者に確認をしてもらっています。
- ・子どもたちには、乳歯の生え始めから歯ブラシを持たせ、0、1歳児は保育士が仕上げ磨きをし、2歳児は自分で磨いた後保育士が仕上げをし、3、4歳児も保育士がチェックをして段階的な指導をしています。その成果として5歳児は自分たちでしっかり磨いています。
- ・看護師は子どもたちが手洗いに興味を持てるように「手洗いの歌」を作ったり、8段階の「手の洗い方」を図示したりして、子どもたちの中には歌いながら手を洗う子もいて、習慣が定着しています。また、看護師が毎週金曜日に各クラスで子どもの爪チェックを行い、月曜日に再チェックをして爪の衛生と安全を心がけています。
- ・感染症への対応に関するマニュアルがあり、発症の疑い等が生じた場合の対応が明記されていて、発症した時や最新情報があるときなどは、お知らせボードで迅速に保護者に伝えています。
- ・保育室やおもちゃ等の消毒はこまめに行い、換気や湿度等に留意しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- (4)衛生管理が適切に行われているか。

- ・衛生管理に関するマニュアルは、運営法人本部が作成していますが、園独自で手洗いや嘔吐処理、下痢対応等の項目のマニュアルを作っています。
- ・職員は採用時に衛生管理についての研修を受け、その後も看護師から年1回以上、実際に嘔吐・下痢等の対応についての研修を受け、手順を実習しています。
- ・清掃マニュアルについては、全保育士が年度初めに読み合わせをし、見直しをして共有しています。清掃後は毎日清掃チェック表に記入して、清潔に保っています。特にトイレは日に3回チェックしています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6)事故や怪我の発生時および事後の対応体制が確立しているか。
- (7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・安全管理に関するマニュアルがあり、全職員に周知しています。
- ・毎月、想定を変えた避難訓練を行い、年1回は消防士立ち会いのもとで通報訓練や消火訓練をしています。
- ・全職員が消防署員による心肺蘇生法やAEDの使用法等の救急救命法の訓練を受けています。
- ・事故や怪我の発生時、保護者、救急機関への連絡方法や連絡の仕方のマニュアルがあり、誰でも連絡ができるようにしています。
- ・保育室内外の「安全チェック表」や「セルフチェック表」「ひやりはっと」等の様式があり、子どもの怪我・安全面に対して記録を取っています。事故については「事故報告書」を作成し、原因・内容・結果・今後の対応策を全保育士が共有し、今後の事故防止に努めています。また、「事故報告書」や「ひやりはっと」は系列園全体でも情報を共有しています。
- ・園の玄関は常時施錠してあり、オートロックになっています。園に入る時はインターホンや目視で確認してから解錠するようにしています。事務室に警報機を設置し、警備会社に通報できる仕組みができています。
- ・不審者侵入への対策訓練を年4回行っています。また、防犯や不審者等に関する情報は、市や区、警察、自治会等から入るようになっていきます。

- 3 人権の尊重



- (1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (5)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・全職員が子どもに対する対応についての研修を受けていて、穏やかに声かけをするように心がけています。
- ・せかしたりせずに、子どものペースを大切に、分かりやすい言葉で話しかけています。子どもの人権を認め、自尊心を傷つけないことを全職員は理解していて、子どもたちはのびのびとしています。
- ・子どもが部屋のコーナー等好きな空間を見つけ、自由に過ごせるような場所を作っています。
- ・守秘義務や個人情報の取り扱いについてのマニュアルがあり、全職員に研修や職員会議で周知しています。実習生、体験学習生、ボランティアに対しても説明をして機密保持誓約書を提出してもらっています。
- ・個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかるロッカーに保管して、園外持ち出しは禁止し、園長の許可の下、園内で取り扱っています。
- ・虐待の定義について、全職員が研修を受け理解しています。
- ・虐待が明白になった場合は、運営法人本部や関係機関に迅速に相談・通報する仕組みができています。家庭支援の必要な保護者には、個別の相談を受けたり声かけをしたりして、虐待の防止に努めるようにしています。
- ・順番、グループ分け、整列等男女別にせず、持ち物服装も自由に行っています。
- ・性差による固定観念で保育を行わないように、会議の中で振り返り話し合うようにしています。父母の役割を固定的に話すこともしていません。


- 4 保護者との交流・連携



- (1) 保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2) 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3) 保護者の相談に応じているか。
- (4) 保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6) 保護者の自主的な活動の援助や意見交換を行っているか。

- ・入園時の面接や懇談会で保育の基本方針について、保護者に説明をしています。連絡帳や「お知らせボード」でも保育方針が理解されるように努めています。
- ・乳児クラスは毎日連絡帳で様子を伝え、幼児クラスも必要に応じて連絡帳に記入し、保護者と連携をしています。
- ・保護者懇談会、個人面談は年2回ずつ行っています。個人面談については他に、保護者の希望に応じて随時対応しています。保育参観日を年1回設けるほか、保護者から希望がある時は、随時受け入れています。
- ・保護者からの相談はクラス担任が対応して丁寧に受けとめ、園長が助言・支援をする体制をとっています。
- ・園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを月末に翌月号を発行して、それぞれにふさわしい内容を工夫して、子どもの様子を伝えています。
- ・行事等の写真はコメント付きで保育室前の掲示板に貼り出しています。保育の様子をスライド等にして保護者懇談会の時、見てもらえるように現在準備中です。
- ・保護者が出席する行事は、なるべく出席しやすい日時を設定して計画し、年度初めに渡す年間行事予定で知らせています。出席できなかった人には資料を配付し園だよりで感想を紹介してフォローしています。
- ・保護者から、自主的な活動のための場所や保育士の参加を求められた時は、それに応えています。これまでに自分達でクラス懇談会を開きたいとの希望があり、場所を提供しています。
- ・保護者会の組織はありませんが、保護者代表・第三者委員・園長・運営法人本部職員が出席する運営委員会の場でも意見交換をして交流に努めています。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2) 地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の園開放を実施しています。この時、訪れた人からの話や相談から地域に対する子育て支援ニーズ等を把握するように努めています。 ・毎週1回育児相談日を設けています。相談に対応する中で子育て支援ニーズを把握するよう努めていますが、さらに利用者が増えることが期待されます。 ・毎月第2土曜日を園開放の日として、地域の5歳児までの親子に対して、乳児の親子を中心に看護師によるベビーマッサージやおしゃべり会、幼児は保育士が読み聞かせや歌遊びをしたりおもちゃで遊んだりしています。毎月数組の参加者があり、看護師はキッズヨガ等の新しい試みも取り入れています。



- 2 保育園の専門性を活かした相談機能



- (1) 地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。
- (2) 相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

- ・毎週月曜日、地域住民に対する育児相談を実施しています。園児と一緒に園生活を体験する保育園体験にも応じていますが、参加者の増加が期待されます。
- ・区福祉保健センター、北部児童相談所、地域療育センターあおば等の必要な関係機関はリスト化され、職員が共有しています。関係機関との連携担当者は園長です。
- ・園からのお知らせは、町内自治会や駅前の掲示板に貼る等、情報提供に努めています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育園に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2) 子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の行事への参加を呼びかけ、ポスターを園の入り口門に貼り出しています。民生委員・児童委員や町内会役員に招待状を送っています。 ・町内会の掲示板等で情報を得て、駅前のコンサート等の町内の行事については、参加できるように配慮しています。 ・近隣の病院の院内保育施設の子どもたちと日常的に交流したり、絵本やおもちゃなど貸し出したりしています。また、公園遊びでは地域の親子や他園の子どもたちと一緒に遊んだりしています。今後は、高齢者施設との交流も計画しています。 ・散歩の途中や公園遊びで会う地域の人や交番の警察官、店の人たちとあいさつを交わしています。 ・地域の山内図書館、公園プール等の施設を利用して子どもの生活の充実を図っています。 ・開園3年目で、自治会・町内会やボランティアグループ等と協力して行事を行うなど、定期的・計画的な交流を図るのはこれからという段階です。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p>  <ul style="list-style-type: none"> (1) 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2) 利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレットを区役所に置いたりホームページを公開したりして、情報を提供しています。また園紹介の大型手作りポスターやベビーマッサージのポスターを、区役所に掲示してもらっています。 ・園のサービス内容、職員体制については、パンフレットやホームページで知らせ、問い合わせがあれば、いつでも応じています。 ・園の見学については、随時受け付けています。ポスターやホームページで知らせ、対応は園長がしています。 ・見学の曜日や時間は、見学希望者の都合に合わせて、随時受け入れをしています。


- 3 ボランティア・実習の受け入れ





- (1) ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。
- (2) 実習生の受け入れを適切に行っているか。


- ・ボランティアや実習生の受け入れマニュアルがあり、職員に周知しています。受け入れと育成の担当者は園長で、受け入れに際してはオリエンテーションを行い、守秘義務について説明し、機密保持誓約書の署名を義務化しています。
- ・レクレーションや運動会関係作業等のボランティアの実績があり、受け入れ後の記録は職員が共有し、ボランティアの感想や意見は、その後の保育や職員の行動に反映させています。
- ・実習生受け入れは後進を育てる大切な機会ととらえ、保護者にも園だより等で理解を求めています。
- ・実習受け入れにあたっては、養成校のプログラムに沿い、園での実習プログラムを立てています。実習の担当者は園長で、指導は各クラスのリーダーが担当しています。終了後も園長・保育士と実習生で反省会を設け、意見を交換しています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p>  <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2) 職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3) 非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の理念や方針に適合した人材を育成するため、運営法人本部では保育理念や目標をよりよく理解できるように新任研修を行っています。定期的開催されるレベルアップ研修でも、理念・目標を十分に理解することを目指しています。また、園内で、求める保育士像、身に付けてほしい資質を保育士一人ひとりについて明文化し、人材育成計画を策定しています。 ・職員は、年度初めに個々の自己評価用紙に自身の振り返りと目標を記入し、保育士としての資質向上に向けて取り組むようにしています。また、年に一度園長との面接があり、自己評価・自己確認をしながら、その目標を達成できるように努力しています。 ・研修は園内研修、運営法人本部での研修、外部研修があります。園外での研修を受講した後は、職員会議や園内研修の際に報告をし、全職員で共有しています。 ・園内研修は毎年内容を決めて定期的に行っています。本年度は、保育ガイド（基本方針、保育者としての心得、保育の実践等が載った業務マニュアル）にそって全職員で保育の基礎から取り組み、7月から毎月1回実施しています。 ・運営法人本部での研修は、本部と園長で現任研修・レベルアップ研修を企画し、また、系列園との交換見学や実習を実施しています。その他、職種別研修が定期的にあります。 ・外部研修は、横浜市こども青少年局や白峰学園保育センター主催の研修等に積極的に参加しています。 ・非常勤職員にも保育ガイドを配付し、入社時に、本部が基本理念、保育理念、方針、行動規範等の新任研修を行います。また、園内研修にも参加できるようにしています。パート研修も行い、月に一度自己評価票を記入して保育の振り返りも行っています。さらに外部研修を受講する非常勤職員もいます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員も職員会議に参加し、夏祭り等の園の行事にも役割を持つ等、職員間の良好なコミュニケーションがとれています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p>  <p>(1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議やカリキュラム会議で保育、サービス等の見直しをしています。個々の職員はそれを基に自己評価を行い、半期ごとに「業務確認シート」に振り返りと自身の目標、クラスの目標、課題や期待すること等をまとめ、計画的に技術の向上に取り組んでいます。 ・外部委託の臨床心理士に月1回巡回してもらい、保育についてのアドバイスを受けています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p>  <p>(1) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育ガイドに、園長・主任・クラスリーダー・保育士・看護師・栄養士・調理員に期待される業務内容が明記してあります。園長は運営法人本部の園担当スーパーバイザーとともに、職員一人ひとりの適性・経験・能力に応じた役割を考えて、園の人材構成にあたっています。 ・職員が業務改善の提案等、意見を自由に言えるように、非常勤職員も含めて全員が同じ気持ちで園の運営にあたるように、風通しの良い職場づくりを目指しています。また、園長は日常的な職員とのコミュニケーションを大切にすることで、個々の職員の満足度や要望をとらえるように努めています。 ・職員の満足度については、運営法人本部でも現場の満足度に関するアンケートを実施したり、園担当スーパーバイザーが、職員全員と個別に話し合う機会を持つなどして、把握するようにしています。 ・職員の休暇や研修参加の際にも保育に支障をきたさないような体制を目指して、定員を多少上回る職員を配置し、また、土曜・日曜の研修には手当をつける等、職員のモチベーションが維持されるように配慮をしています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p>  <p>(1) 事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2) サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の守るべき法・規範・倫理等は業務マニュアル「保育ガイド」に明文化されています。これは全職員に配付され、入社時に運営法人本部で研修を行っています。園内研修でも全職員に周知しています。 ・玄関に事業計画書・事業報告書・経営収支報告書を置き、保護者がいつでも見られるようにしています。また、企業内ホームページがあり、運営法人の情報は職員が見ることが出来るようになっています。 ・環境への考え方、取り組みを事業計画に明記し、日々の保育に活かされるように職員間で話し合い、実行しています。 ・リサイクルについては、裏紙でメモ帳を作ったり、厨房で出た食材の容器やプラスチックのケース、職員が使用するゴム手袋の箱等々、利用できそうな容器や資材は保管して教材に再利用しています。 ・ゴミの減量化としては、ペーパータオルやティッシュペーパーを半分にして使用しているほか、ゴミの分別、ペットボトルのキャップ収集等に、園全体で取り組んでいます。

- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- (1) 保育園の理念や基本方針等について職員に周知されているか。
- (2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。
- (3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

- ・ 保育理念、保育目標は全職員に配付している業務マニュアル「保育ガイド」に明文化し、入社時や年度初めの職員会議で周知しています。園長は、保育課程や年間指導計画の見直し、作成の際に、職員の理解度を確認しています。
- ・ 園長の変更、職員の異動、クラスの担任編成の変更等、重要な決定にあたっては、運営委員会や保護者懇談会で丁寧に説明したり、事情を説明した手紙を全保護者に配ったり、意見も聴くなどして、理解を得るようにしています。
- ・ 園長は園内の保育士の動きを把握し、新人保育士への指導や、職員全体への助言を行い、信頼関係を大切にコミュニケーションをとりながら、精神面でも身体面でも支えになるように配慮しています。
- ・ 昨年度に園長変更となり、主任が園長に就任したため、一時的に園長が主任を兼務しています。現在、主任候補を育成中であり、職員へのスーパーバイズの役割を果たす主任クラス職員の体制については、今後の整備が期待されます。

- 3 効率的な運営



- (1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。
- (2) 保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- ・ 運営面での改善課題（保育所保育指針の改定、保育課程、職員体制、職員の労働条件等）については、運営法人本部主催の園長会において検討・報告され、その後各園に持ち帰って職員に周知しています。
- ・ 中長期的事業計画は、運営法人本部が分析・協議して作成しています。次代の組織運営に備え、系列各園がスムーズに連携できるように本部では専門的な知識や意見を取り入れて運営を常に検討しています。
- ・ 運営に関しては、提携企業やコンサルティング会社等、外部の機関や専門家の意見を取り入れています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2010年10月1日～10月14日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 91.3%（46枚配付、42枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...6人、1歳児クラス...10人、2歳児クラス...8人、3歳児クラス...8人、
4歳児クラス...4人、5歳児クラス...6人

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

まとめ

- ・総合満足度は、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると90.4%です。
- ・満足度95%以上と特に高い項目は、お子さんが給食を楽しんでいるか 給食の献立内容 クラスの活動や遊び 基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み 遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているか お子さんの体調への気配り 園の目標や方針についての説明 です。
満足度が特に低い項目は、見られませんでした。
- ・自由意見欄に最も多く書かれていたものは、職員の対応の良さに関してです。「いつも、あたたかい笑顔で、むかえてくれる先生方、親子共々安心して通っています」「普段から担任の先生以外とも話す機会が多く、誰とでも話しやすく良いと思います」「相談事は親身になって迅速に対応して下さいます」「いつも柔軟に対応して頂いています」等々です。
次いで多く書かれていたものは、園庭に関するものです。「外にはよく連れて行ってってくれるが、環境として園庭がないのは残念」「きれいで清潔感がありますが、やはり園庭がないのが残念です」というような、園庭が無いことへの不満とまではいきませんが残念な思いが書かれています。しかし、「園庭がないので不安でしたが、沢山外で遊んでいるようで安心しました」「園庭がなく、入所当時は不安が少しありましたが、先生方の対応の良さ、保育園内の快適さ、イベント、給食の対応等々、にじいる保育園に入れて良かったと感じています」というような意見も多く、園庭が無くてもそれを補うものがあり、不満にはつながっていない状況が見られます。施設設備の満足度が83%を超えていることから、園庭が無いことに対する園側の取り組みと努力がうかがわれます。
- ・ただ、「園庭がない分、外のお散歩に行っているが、毎日行っているのか、何時間遊んでいるのか、説明がないので分からない」「もう少し大きくなったら、運動不足やストレスが溜まったりしないか心配」という不安が、何人かの保護者から出ています。実際の保育園生活では体力づくりや運動遊びに力を入れていて、大縄跳びなども子どもたちは夢中になってがんばっています。保護者の不安に何らかの形での対応が引き続き望まれます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

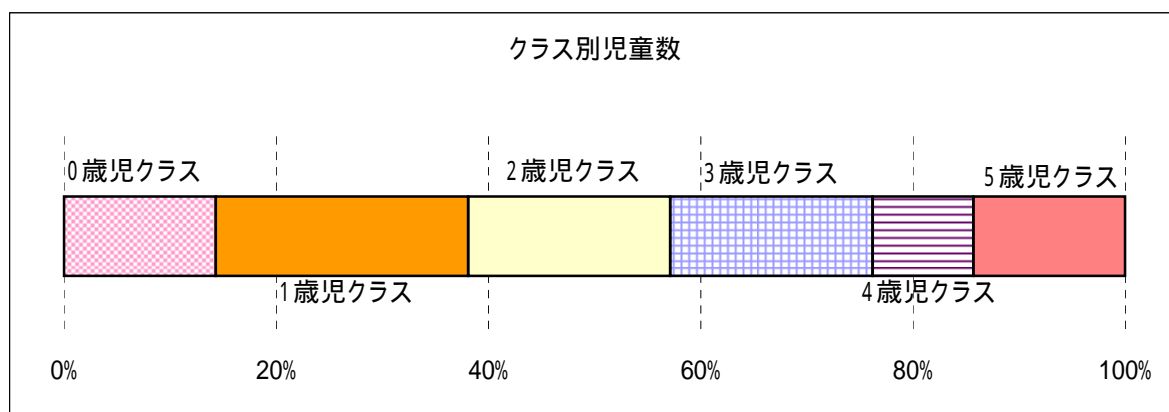
実施期間： 2010年 10月1日～14日

回収率： 91.3% （回収42枚 / 配布46枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
42	6	10	8	8	4	6	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



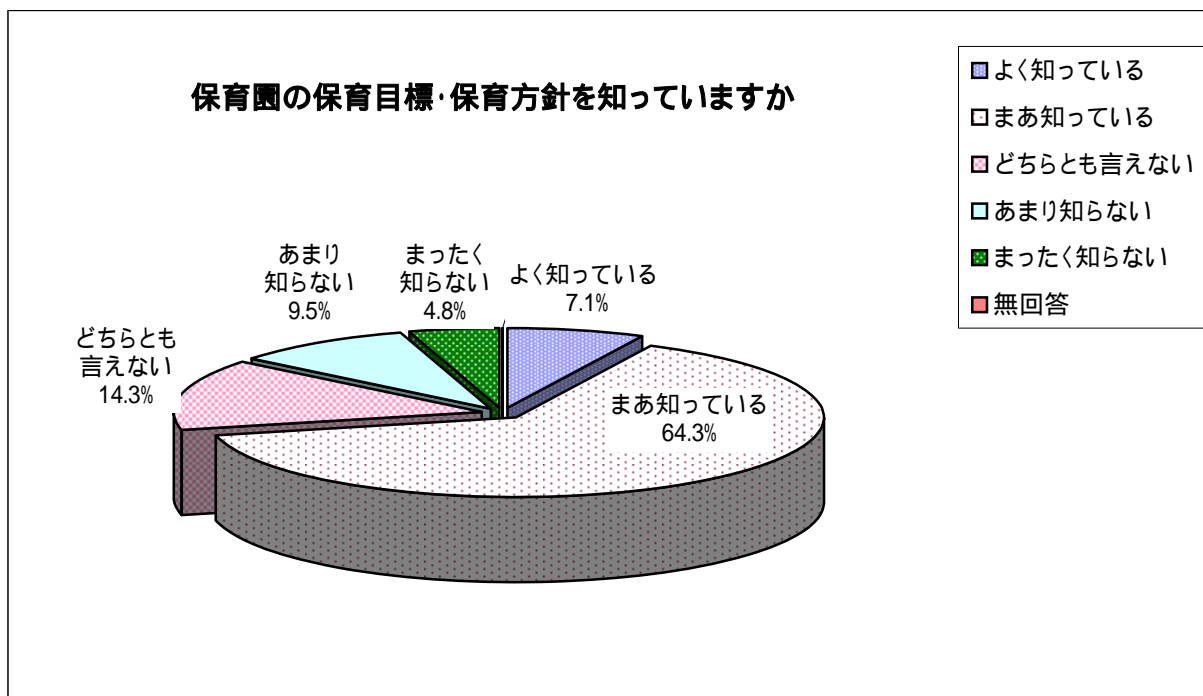
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	7.1	64.3	14.3	9.5	4.8	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

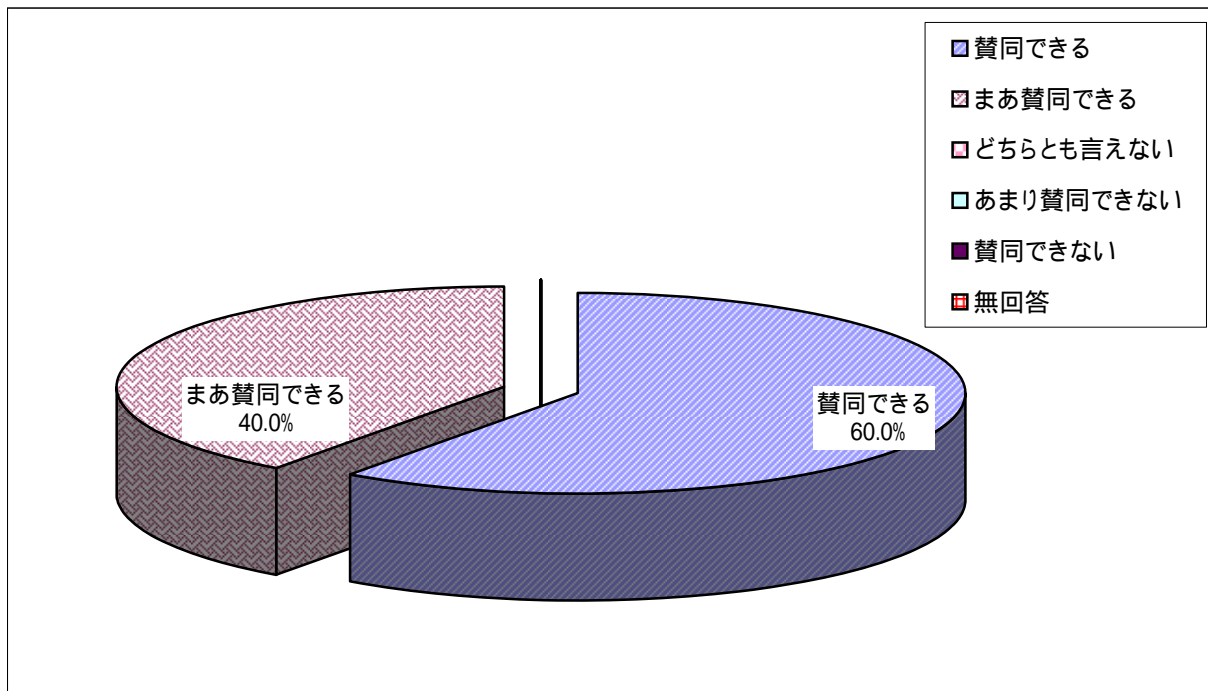


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

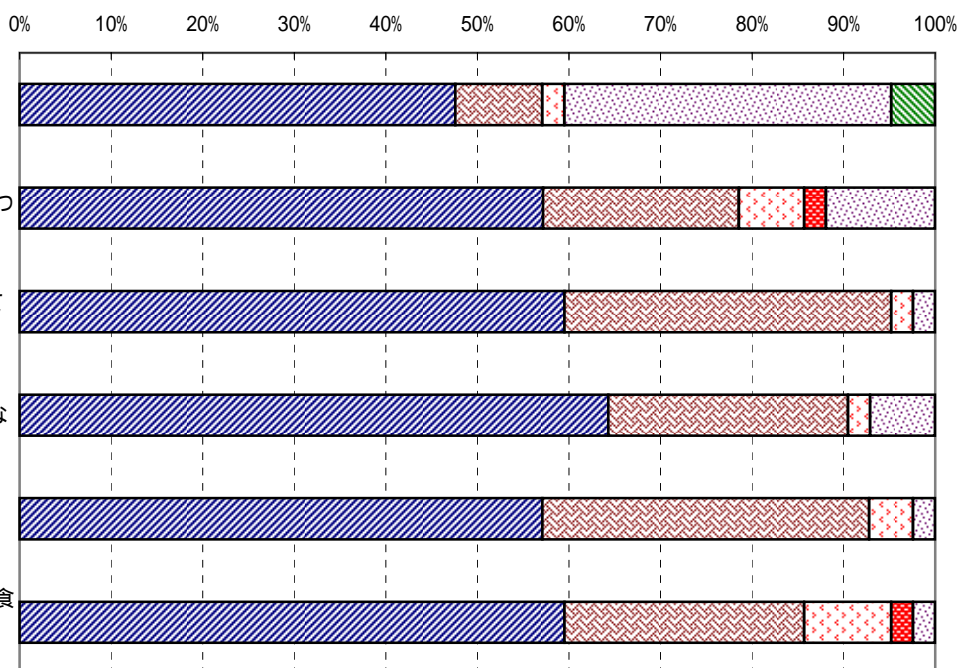
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	47.6	9.5	2.4	0.0	35.7	4.8	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	57.1	21.4	7.1	2.4	11.9	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	59.5	35.7	2.4	0.0	2.4	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	64.3	26.2	2.4	0.0	7.1	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	57.1	35.7	4.8	0.0	2.4	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	59.5	26.2	9.5	2.4	2.4	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



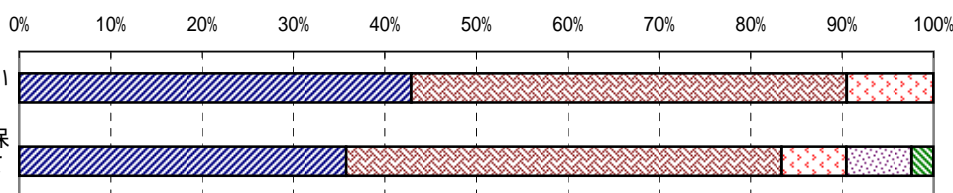
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	42.9	47.6	9.5	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	35.7	47.6	7.1	0.0	7.1	2.4	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



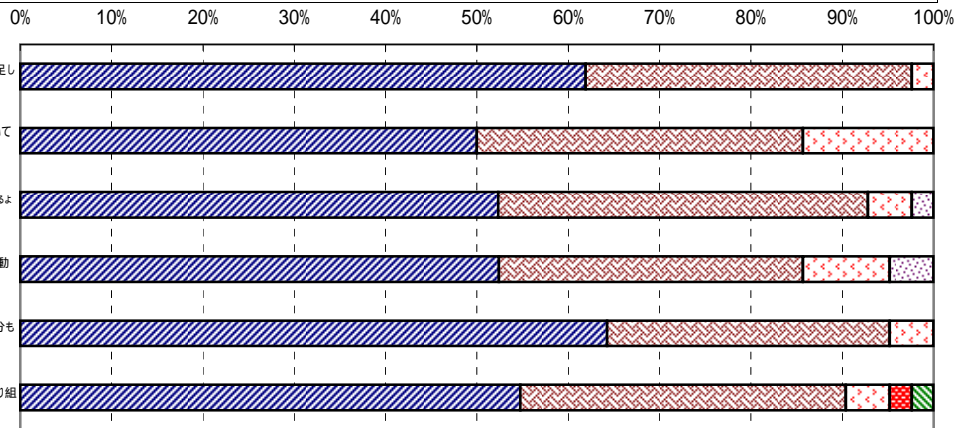
問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	61.9	35.7	2.4	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	50.0	35.7	14.3	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	52.4	40.5	4.8	0.0	2.4	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	52.4	33.3	9.5	0.0	4.8	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	64.3	31.0	4.8	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	54.8	35.7	4.8	2.4	0.0	2.4	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

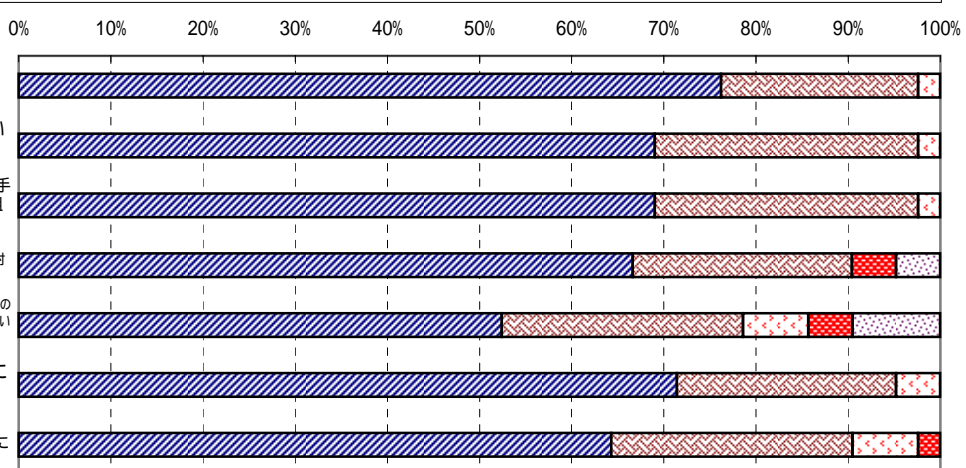


(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	76.2	21.4	2.4	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	69.0	28.6	2.4	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	69.0	28.6	2.4	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	66.7	23.8	0.0	4.8	4.8	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	52.4	26.2	7.1	4.8	9.5	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	71.4	23.8	4.8	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	64.3	26.2	7.1	2.4	0.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



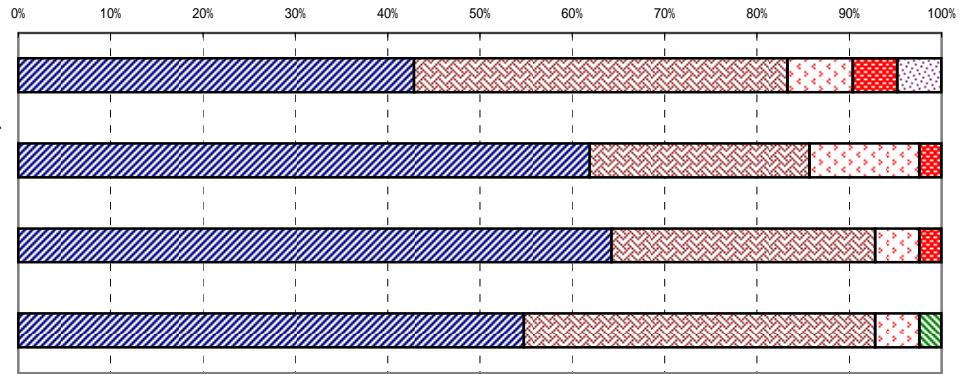
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	42.9	40.5	7.1	4.8	4.8	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	61.9	23.8	11.9	2.4	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	64.3	28.6	4.8	2.4	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	54.8	38.1	4.8	0.0	0.0	2.4	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



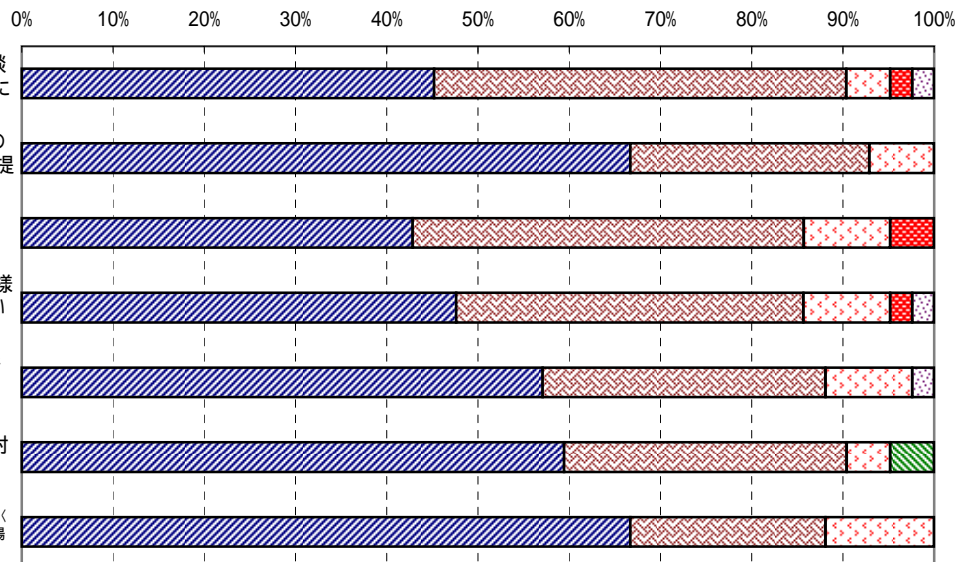
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	45.2	45.2	4.8	2.4	2.4	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	66.7	26.2	7.1	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	42.9	42.9	9.5	4.8	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	47.6	38.1	9.5	2.4	2.4	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	57.1	31.0	9.5	0.0	2.4	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	59.5	31.0	4.8	0.0	0.0	4.8	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66.7	21.4	11.9	0.0	0.0	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

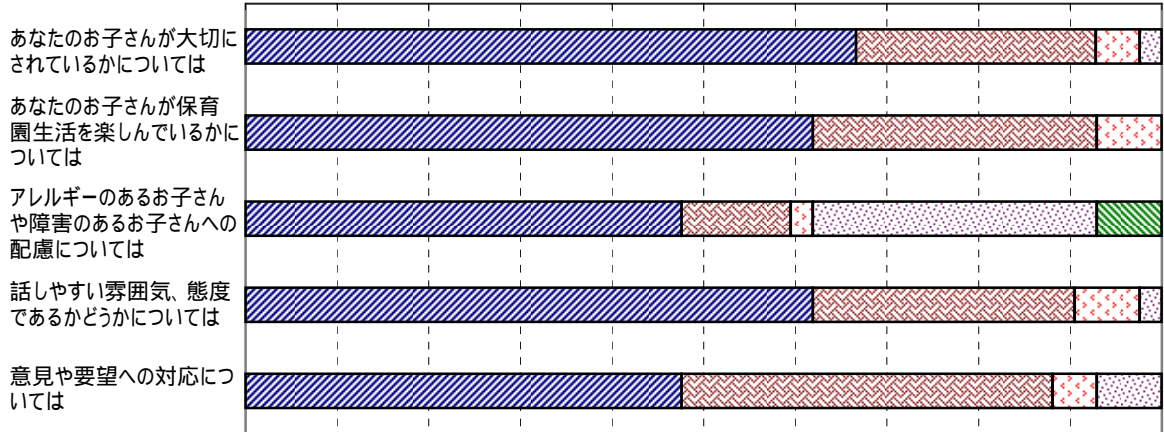
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	66.7	26.2	4.8	0.0	2.4	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	61.9	31.0	7.1	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	47.6	11.9	2.4	0.0	31.0	7.1	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	61.9	28.6	7.1	0.0	2.4	0.0	100
意見や要望への対応については	47.6	40.5	4.8	0.0	7.1	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

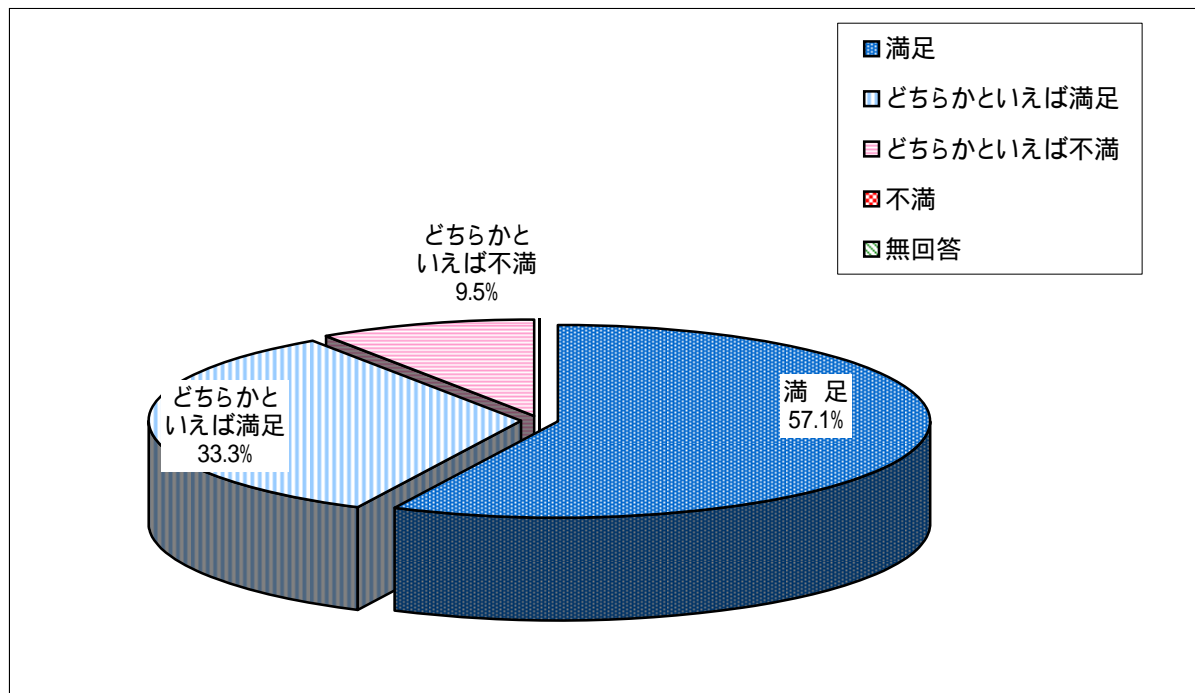
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	57.1	33.3	9.5	0.0	0.0	100



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 2010年12月13日（月）9：00～18：00 12月15日（水）8：30～17：00
観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス（だいち組）

一番小さい子は12月生まれで、まだ抱っこされていることが多く、にこにこしています。

保育室には保育士の手作りおもちゃが多くあります。布の人形の他に、牛乳パックで作った犬や小さなトンネル、椅子、ダンボールの大きなトンネル等きれいな紙で貼ってあり、見た目も廃材から作られたようには見えない出来栄で、子どもたちは喜んで遊んでいます。公園に行く時は、箱型バギーに乗って行きます。広々とした公園の起伏のあるところを、保育士と手をつないで頑張って上っています。

授乳や食事は、ミルクも飲む子、離乳食の子など一対一対応で、食事も前半後半に分かれてしていますが、後半の子どもが泣いてしまうと、保育士が抱っこして一緒に絵本を見たり、ぬいぐるみで遊んだりしていました。

オムツ交換は、すぐ隣の沐浴室のオムツ交換台で、声かけをしながらしています。

1、2歳児のしていることにも興味を持ってじっとみつめています、「お座りトン」の合図で集まって、模造紙にみんなで自由画を描く場面も見られました。

子どもたちは2人の担任保育士と一緒に過ごしていますが、年度初めには看護師もクラスに入ったり、現在も必要に応じてフリーの保育士も入ったりして、初めての保育園生活を手厚く見守られています。

1歳児クラス（そよかぜ組）

10人の子どもたちが集まっておやつや食事を食べているところは、0歳児よりぐっとお兄さんお姉さんになっていて、残す量も少ないです。

散歩に行く時も自分で靴下をはこうとする子も多く、2人ずつ手をつなぎ道路をしっかりと歩くことができます。公園でも起伏のあるところを駆け上っています。散歩の後、靴とコートを自分で脱ぐのを保育士は見守っています。ブロックが気に入りトイレに行く時も離さなかった子どもに、保育士は目を見ながら「赤ちゃんがなめちゃうからトイレには持って行けないんだね」と言うと、すっと離しました。

トイレは、保育室隣の沐浴室を使っているのでも、保育士は見計らって連れて行き、子どもがおまるに座って成功すると「できたねえ」とほめています。散歩から帰った時等はトイレや流しが少し混雑しています。

天候が悪く外に行けない時も、保育室で新聞をちぎり、集めて散らす遊びに熱中したり、2歳児のリズム遊びと一緒に参加したり、コーナーの思い思いのおもちゃで遊んだりして、いつも元気いっぱいの子もたちです。雪だるまに目鼻をつけた作品が飾られていましたが、同じ材料でもとても個性的でした。

2歳児クラス（ふたば組）

リズム遊びでは、曲を聞きながらバランスを取って踊るのが上手になって来ています。外遊びでも広い公園を駆け回って遊んでいます。室内の自由遊びでは、絵本やままごと、人形、ブロック、プラレール等のコーナーで、好きな遊びに熱中しています。プラレールもままごとでも広がりを見せ、友だちとの関わりも増えています。

2歳児は、トイレも手洗いも幼児と一緒にしています。まだ、トイレット・トレーニング中の子どもも多いのですが、保育士に手助けをしてもらいながらパンツやズボンを履く等、自分でできることを頑張っています。手洗いの時も「お袖をキュッ」と言って、腕まくりをして手首まで丁寧に洗っています。

給食では、テーブルをつなげて全員で向き合って食べていますが、こぼす子はほとんどいません。

1日のプログラムの切り替えの時、保育士はよく絵本の読み聞かせをしています。首を上げて絵を見ながら集中して聞いている子も多いです。

乳児クラスの中のお兄さんお姉さんとして、散歩や室内遊びでも0、1歳児の子どもたちが2歳児クラスの

子どもたちを見たり真似をしたりしています。

3歳児クラス（うみ組）

登園後の朝の自由時間は4、5歳児と一緒に過ごしています。テーブルごとに絵本やパズル、塗り絵等、好きな遊びを選んでしています。朝の会が始まると、3歳児の保育室に移動し、朝の会をします。保育士は、「ちゃん元気ですか」と確認をしています。中には順番が最後では嫌だと泣く子や、落ち着かない子もいますが、保育士は優しく話しています。

雨の日は「なべなべそこぬけ」や「かごめかごめ」等のわらべ歌を歌いながら遊んだり、ボール転がしをしたりしています。粘土遊びでも「しいたけさん、ごぼうさん」と歌いながら作ったり、エビを作って食べる真似をしたりと模倣遊びが好きな子どもたちです。

トイレは出かける前などは保育士が誘いますが、自発的に行っています。蛇口から水を出しにくい子には、保育士が手伝っています。

給食を食べるのも上手になり、おかわりをしている子もいます。

幼児クラスの中ではまだ甘えたい子どもたちですが、公園で1、2歳児と一緒にになると「そっちは危ないよ」と声かけもしていました。

4、5歳児クラス（そら組、たいよう組）

ほとんどのプログラムと一緒に過ごしている子どもたちですが、クラス別活動の時間もたまにあります。4歳児のスペースと5歳児のスペースは、職員が取り付け天井から下がる短いカーテンで区切られていて、落ち着いた雰囲気です。

登園後の朝の自由遊びでは、組み合わせブロックやパズル等の知育玩具、トランプ、あやとり、塗り絵等を友だちと一緒に楽しんでいる子が多いです。集団で遊ぶ時も伝言ゲームやフルーツバスケット等、合図をよく聞いてしています。

公園では大縄跳びや方形ドッジボール等、この年齢ではむずかしい遊びを喜んでしています。5歳児の保育室にも「おおなわがんぱりきろくひょう」が貼ってありますが、全員励まし合いながら取り組んでいて跳べない子がいません。また、みんなが夢中になる大縄跳びですが、そばに1、2歳の子が来ると「危ないよ」と言って、中断して待っています。

全員で公園から園に帰ると入り口が混雑していることもありますが、保育士もただ待たせるのではなく、そこでできるゲーム等をして、年下のクラスが順に入るのを当然のような表情で、楽しみながら待つことができます。

トイレでも並んで順番を待ったり、手洗いも看護師が作った手の洗い方の図を見たり「手洗い歌」を歌ったりして確認をして丁寧にしています。

給食の時は4、5歳児各クラス2人ずつの当番がいて、おしぼりをすすいだり、栄養素を3分類した「食育ボード」に給食の材料をみんなと確認しながら貼っていたり、お茶を配ったりしています。保育士と栄養士は間違いがあると知らせたり、当番が仕事してくれたことに、子どもたちとともに感謝したりしています。

造形活動も盛んですが、このクラスの子どもの作品は、細かいところも工夫されていて子どもたちに培われた力が感じられます。

5歳児は、保育室に「たいよう組の1ねんかん」の表を貼り、一つ一つの行事をこなしながら卒園までの日を過ごし、いつもそばにいる4歳児もそれを見習っています。

まとめ

乳児は、個別対応で丁寧に見守られながら育っています。どのクラスも、年齢ごとに段階的に発達している様子がよく感じられ、全体が見渡せる保育室で兄弟姉妹のように仲よく過ごしています。園長はじめ職員は温かいまなざしで子どもたちの保育にあたっています。

事業者コメント 第三者評価を終えて

平成23年2月28日

にじいる保育園 江田

< 全職員からのコメント >

受ける前・受けている時

常勤・・・自分の保育を客観的に見てどうだろうか、と改めて考える良い機会になったと思った。また、評価の方が見て下さったことで（自分のクラスに一日入ることもあり、近くでメモを取られることにも慣れずにいたが、温かい目で見て下さっていた為、いつも通りに子どもたちと関わることが出来た）緊張もしましたが自分の保育を見直す機会になった。

評価の項目が多くて大変ではあったが、評価の項目をチェックするたびに、自分が出来ているのか振り返ることが出来たし、改めて園の取組を知り、園について考えることができ良い機会になった。

園のことで、わからないことなど1つ1つ確認し認識できたことはとてもよく勉強になった。時間もあまりなかったが皆で話し合うことで、他の保育士の考え方をすることもできよかったし、共通理解ができて良かった。

非常勤・・・勤務時間がなかなかあわず話し合いに参加できなかったのだが、自己評価を記入していてとても多かったが、少しずつ知ることができよかった。

保育士達の考えや意見が、今まではなかなか聞ける機会がなかった。

評価の項目も自分だけではなく、園全体としての評価を記入するのは難しいことと思ったが、保育士の意見を聞くことで、自分なりの意見が書けるようになった。

評価を受けて

常勤・・・保護者のアンケート結果で、給食に対しての不満等も特になく、こちらの努力の姿勢を理解していただけたようで安心した。また、普段なかなか聞くことのできない保護者の思いを知る事ができよかった。そして、保護者の方々のニーズにあった保育をしていきたいと思った。

当たり前のこと（子どもたちとの接し方・環境構成・の配慮事項・ポイント等など）を再度見直し、子どもたちの事を一番に考えて行動していくことの大切さを改めて感じた。

自分の園について、良いところなど改めて考えることが出来る良い機会だったと思った。

自治会・町内会行事がこの地域にはなく、参加したくても出来ないことが残念であったが、今後の課題が明確になったことで、今後も時間をつくり、様々なことについて、職員同士話し合いをし、より良い保育をしていけるよう努力していきたい。

非常勤・・・職員間で話し合うことにより、改めて自分としてあいまいだったことも知ることが出来、園としてプラスになったのではないかと思った。

第三者評価では自己分析ができ、研修の一環として、勉強になった。今後も短時間での勤務ですが、その都度、保育士の指示の下、園児たちを見守り努力していきたいと思った。

< 園長からのコメント >

評価を受けたことで、私も全職員も今までの自分たちがしてきた保育に、自信を持つ事が出来たと同時に、今後の保育をより一層子ども達の事を考えていく保育、そして、地域の方にとっての保育園のあり方を考えるには良い勉強になり、今後に活かしていきたいという気持ちです。また、保育士からは評価調査員の方たちが保育室に入ること、とても緊張、不安があったということでしたが、子ども達が普段とかわらずにいてくれたことで保育士達も、少しずつリラックスが出来たようでした。また、保護者アンケートを見ても、保護者の方の率直な意見を聞く事が出来、良かったと思えました。半年という長い期間での評価でしたが、有難うございました。

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
